

(8) 結果と考察



高知県の茶栽培は、生産者の高齢化、荒茶価格低迷、生産資材高騰に加えて急傾斜という栽培条件の不利性などから栽培意欲の低下や放棄茶園の拡大が進んでいる。

更に、高知県内の90%近くを占める30年を超える樹体については、安定した収穫を得ることが出来ず、改植・台切り・中切りにより樹勢回復を図ることが急務となっている。

一方、自家自園農家・法人に関しては、平均年齢も比較的低く今後も継続する意向を持っている生産者が多い。

これらを踏まえ、国内需要が減少する中であって、緑茶輸出（抹茶を含む粉末状緑茶7割以上）が過去最高であることや旺盛なインバウンド需要を背景に、作業効率が悪い急傾斜の山間部に茶畑がある高知県も、碾茶（てんちゃ）栽培による輸出拡大や、近年消費者ニーズが高まっている有機栽培、産地景観の活用、消費拡大につなげる「土佐茶」のブランド力・PR強化及び担い手確保や基盤整備等の生産基盤の維持・拡大等の取組推進を図ることが考えられる。

そこで新たに、土佐茶の更なる振興に向けて、担い手に対する茶園管理の一元化や組織化を進めるとともに、すでに需要が拡大しつつある「有機栽培紅茶」への取組など生産コスト低減及び所得向上を図ってはどうか。

さらに、和洋菓子とのセット商品などさまざまなアイディアをもった企画開発や、高知の魅力ある景観と併せお茶文化の振興を図りながらの新たな販路開拓による販売・消費拡大を図ってはどうか。

この分析・実践を通して、茶栽培は、現生産者にとっては誇りとやりがいにつながり、若い人にも魅力ある生業となることを目指し、高知県拠点としても、各種政策支援を強化するとともに土佐茶の魅力をあらゆるツールを使って発信してまいりたい。

